

別視点シティ

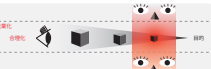
01 産業化、合理化のつく未来

産業化による単純化、均質化の完成り立つ現代。規格化された工業製品によって建てられた住宅の風景は私たちに「冷たさ」すら与える。今後も無駄は省かれ続け、未来はさらにミニマルになると考えられる。敷地は新興住宅地。風格のないハウスメーカーの住宅が次々と立ち並び新しい街が始まろうとしている。



産業化した住宅の建築的魅力を再考する

産業化した住宅、またその外部は冷たい印象を与えるがそれだけであろうか。産業化した目的とは別の解釈から住宅を読み取る。



02 リサーチ：豊かな工業部材

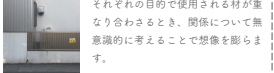
敷地外の都市や街の産業化したエレメントの豊かさをリサーチした。大きく3種に分類された。

①4種の経年変化

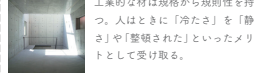


エレメントが持つ情報を分解すると年月が想像される「変化」、自然との対峙が想像される「自然的変化」、人との関わりを想像させる「人為的変化」、時代背景を想像させる「トレンド」の4種の情報が存在し、これら変化によって現在の状態を把握している。

②自律的な別材のコラージュ



③規律を持つ材



結果：エレメントの多義性

建築を構成する「エレメント」が多義性を持つと深く読み取り空間に魅力が増すことがわかる。それは産業化された工業的な部材であっても等しくトマソンはその一例とも言える。
エレメントの多義性は我々建築を学ぶ者には理解しやすい「意味」と一般の方にも理解できる「意味」が存在し、これを一般に伝えることが今後産業化する社会の中で建築（空間体験）をより魅力的に発信していく我々の使命であると考ええる。



検証：心理から見た豊かさとは多義性

建築、空間内では能動的に自身の環境を理解しようとする。このことを「多義性」といふ。理解し知覚の快楽を得ること「多義性」といふ。建築ではこの知覚の快楽が豊かさとなっている。多義性のある建築は多義的な視点から空間を理解するための利用法（理解者）に豊かさ（知覚の快楽）を与える。また、空間の解像度を高く伝えることができることも捉えられ、より知覚の快楽（豊かさ）を伝える空間である。



03 提案：街に多義性を持たせる

目標
ハウスメーカー「冷たい」「無個性な」街並み → ハウスメーカーでも個性的かつ魅力的で賑わいを生む街並み

地と図の反転

ハウスメーカーらしい工業的な住宅であっても数パターンの外壁材や配管、設備等様々なエレメントを織り。地と図を反転させ外部の工業的なエレメントが新興住宅地での魅力的なまちづくりで活躍できる状態を設計する。
①住戸に接続するよう車道を設置。
貫通させ②余白を設けながら敷地同士を隣接させることで複数のエレメントがコラージュされる状態を促す。③鉄塔は住宅の外壁等と同様、エレメントとして解釈する。



コミュニティ：多義性を生み出す空間

特にコラージュが生まれる部分に配置。一般の方に多義的に空間を把握させるよう切り取るように壁や壁、開口を設定する。作為的に切り替えを行いコラージュを発生させる。



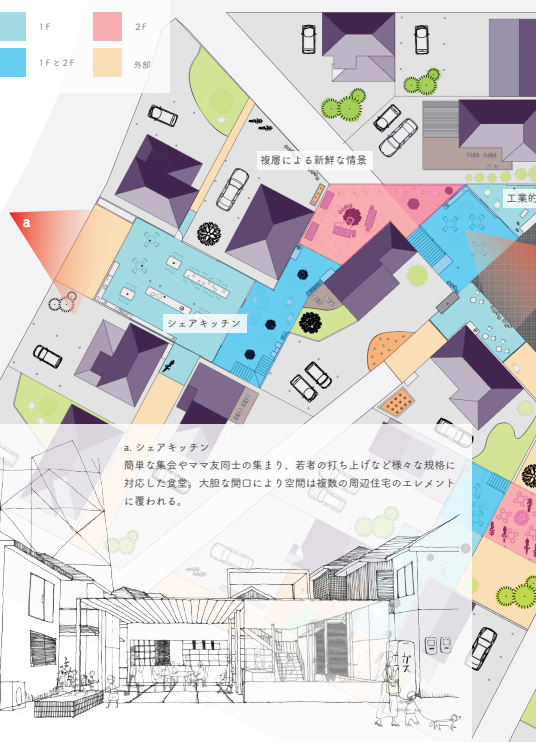
素材感による感覚的な場の扱い

鉄骨やコンクリートブロック等の工業的な材が多く構成する空間では雑多な暮らしが、ハウスメーカーの整った外壁で構成される空間では魅せる暮らしが感覚的な慣習から生まれ、街の表情を変える。



コンテンツ

機能に左右されない自由な空間「フリースペース」と、シェアキッチンが室内外に挿入。コワーキングスペースや集会所、地域住民同士の団体の場、イベント会場としての、利用が想定される。



発生するコラージュ（立面図兼コア展開図）



街を多義的に思考する住民育成プログラム

